

公表

事業所における自己評価結果

| 事業所名 | しあわせ駅早良 | | 公表日 | 令和 7年 1月 18日 | | |
|----------|---------|--|-----|--------------|---|---|
| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 | |
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | ○ | | 二階やテラス、近隣の公園を活用しながら安全なスペースを確保している。 | 11月1日から野芥への移転により活動スペースが広がる。柱の角や家具の配置など、安全に配慮を行っていく。 |
| | 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | ○ | | 職員の休みが重なったり欠員が出た際は、系列事業所に応援に来ていただき、配置が適切になるようにしている。 | 利用希望があっても、下校時間が重なることで送迎に行けないためお断りすることがある。 |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | ○ | | | |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | ○ | | | |
| | 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | ○ | | | |
| 業務改善 | 6 | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。 | ○ | | 普段から職員間での意見交換を行い、児童の情報共有を行っている。 | |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | ○ | | 毎年、評価表や要望表を参考にして改善に取り組んでいる。 | |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | ○ | | 普段から職員間での意見交換を行い、児童の情報共有を行っている。 | |
| | 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | | ○ | | |
| | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | ○ | | テーマを決めて事業所内研修を行うようにしている。 | |
| 適切な支援の提供 | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | ○ | | | |
| | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 | ○ | | 半年に一回のペースでアンケートと面談を組み合わせて各場面で状況把握を行い計画に反映している。 | |
| | 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | ○ | | | |
| | 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | ○ | | | |
| | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | ○ | | アセスメントシートを活用しながら保護者への丁寧な聞き取りを行うように心がけている。 | |
| | 16 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | ○ | | 利用児童、保護者の思いを主体としながら項目の設定や支援内容の設定を行っている。 | |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | ○ | | 様々な意見を持ち寄って全体で話し合って計画、実施を行っている。 | |
| | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | ○ | | 子ども達や保護者からご意見をいただき、活動に反映するようにしている。 | |
| | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。 | ○ | | 子どもの状況や保護者のニーズに応じて個別活動と集団活動を行っている。 | |
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | ○ | | 気候や子ども達の状況に応じて臨機応変に計画や職員の役割について変更を行っている。 | |

| | | | | | | |
|--------------|---------------------------------------|--|---|-----------------------------------|---|--|
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | ○ | | 送迎終了後にその日の支援について話し合い、共通認識ができるようにしている。 | |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | ○ | | 全体・児童一人ひとりの活動記録の記入を行い、支援の改善に繋げている。 | |
| | 23 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | ○ | | 職員全体で話し合うようにしている。 | |
| | 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。 | ○ | | ガイドライン総則の基本活動に基づき、自立・創作・交流・余暇を複数組み合わせさせて支援を行っている。 | |
| | 25 | 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。 | ○ | | | |
| 関係機関や保護者との連携 | 26 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | ○ | | 基本的に管理者兼児童発達支援管理責任者が参画している。 | 管理者兼児童発達支援管理責任者のみの参加であるため、人材育成の為に他の職員の参加を促していく必要がある。 |
| | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | ○ | | | |
| | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。 | ○ | | 必要な連絡調整に関しては適切に行うことができている。 | |
| | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。 | ○ | | | |
| | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。 | ○ | | | 必要に応じて行っていく。 |
| | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。 | ○ | | | 今のところ機会がない。 |
| | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。 | ○ | | | 今のところ機会がない。 |
| | 33 | （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。 | ○ | | | 今のところ機会がない。 |
| | 34 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | ○ | | 連絡帳や送迎時、電話連絡等で情報共有を図っている。 | |
| | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | ○ | | 系列事業所主催のペアレントトレーニングが開催される際は広報を行い、参加を促している。 | |
| 保護者への説明等 | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | ○ | | 見学や契約時に丁寧な説明を意識している。 | |
| | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | ○ | | 要望確認書を活用しながら、意向の確認を行っている。 | |
| | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。 | ○ | | 保護者のスケジュールが合わないことがあるため、面談に来られない場合は送迎時の対面や連絡帳を通して同意をいただいている。 | |
| | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | ○ | | 相談には随時、傾聴・共感・助言・支援を行っている。 | |
| | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。 | ○ | | | 現状実施していない。 |
| | 41 | こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | ○ | | 苦情に対しては貴重なご意見と踏まえ真摯に受け止め職員全体で共通認識し、改善に努めている。 | |
| | 42 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。 | ○ | | innsutagutamuやLINEを活用しながら、広報を行うとともに、連絡体制を整えている。 | |
| | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | ○ | | 個人情報保護規定に基づき、十分注意している。 | |
| 44 | 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | ○ | | ジェスチャーや写真、筆談等の工夫を行いながら意思疎通を図っている。 | | |

| | | | | | | |
|---------|----|--|---|---|--|--|
| | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | | ○ | | 近隣の公園での活動の際には交流することもある。系列のカフェやB型作業所が主催のイベントで地域の方と関わることがある。 |
| 非常時等の対応 | 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | ○ | | | |
| | 47 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | ○ | | | 避難訓練となると動けなくなる児童がいるため、日ごろから避難ルートを散歩することで恐怖心を軽減できるような配慮が必要。 |
| | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。 | ○ | | 保護者からの連絡や聞き取りにて状況の確認を行っている。 | |
| | 49 | 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | | ○ | 保護者への聞き取りにてアレルギーの把握を行い、職員に周知している。 | 医師の指示書が出ている児童は現状いない。 |
| | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | ○ | | 安全計画を作成し、研修を実施している。 | |
| | 51 | こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | ○ | | 台風や地震が起きた時の対応について周知を行った。 | |
| | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | ○ | | 事故や子どものケガにつながりそうな事柄については、原因を明確にし対策を取っている。 | |
| | 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | ○ | | 虐待防止研修を実施し、職員全体での周知徹底を行っている。 | |
| | 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | ○ | | 現在身体拘束の必要性のある児童はいないが、マニュアルの整備・職員間への周知は行っている。 | |

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|---------------|----|---------------|
| ○事業所名 | しあわせ駅早良 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和 6年 10月 1日 | ～ | 令和 6年 10月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 24 | (回答者数) 21 |
| ○従業員評価実施期間 | 令和 6年 10月 1日 | ～ | 令和 6年 10月 31日 |
| ○従業員評価有効回答数 | (対象者数) | 6 | (回答者数) 5 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和 6年 11月 15日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 平日の活動内容が比較的ゆったりしており、利用児童がストレスを感じないように過ごすことができている。 | 活動内容の強要はせず、利用児童の特性に合った活動を主体として過ごすことができるようにしている。 | 送迎で職員が抜ける時間帯は児童の支援にあたる職員が手薄になるため、人員確保に努め、平日の公園遊びや散歩などを取り入れていくことができるようにしていきたい。製作活動の内容を充実させていく。 |
| 2 | 休日はおでかけをするようにしている。 | 休日利用日のおでかけ、遠出を二週にされている家庭が多くあるため、気候の良い日はできるだけお出かけをするようにしている。 | 障がい特性に応じて外出のグループを分けることで、利用児童が退屈にならないようにしていく必要がある。 |
| 3 | 保育士、教諭経験のある職員が多く在籍しており、児童のニーズにあった支援が提供できていないかと考えられる。 | 様々なツールを活用しながら情報共有を行うようにし、児童の状況の把握に努めている。 宿題支援や児童の「〇〇したい」の希望を取り入れた支援を心がけている。 | 外部研修への参加や話し合いを重ねながらより良い支援を行うことができるように人材育成をしていく。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 職員の休職もあり、人員が不足気味。 系列事業所へ応援要請をしなければならない日が多い。 | 常勤職員は6人いるもののお休みが重なる日がどうしても出てくる。 下校時間が全校重なってしまった時に車も足りなくなることがある。 | 非常勤でも構わないので事業所固定で働いてくれる人材が必要。(12月より、非常勤2名加わり8名体制に改善) 車が足りない日は系列事業所の車を借りる、送迎を組み合わせるなど工夫する。 |
| 2 | 室内での運動遊びが難しい。 | 【旧事業所】 昔ながらの一軒家で柱や壁が多く、運動には不向きである。 また、建物の老朽化が著しい。 【新事業所】 広くなるものの、角や階段で怪我をする可能性がある。 | 令和6年11月1日から野芥へ移転。飯倉の建物よりも広くなり、鬼ごっこや体操、ボール遊びなども可能になった。安全のためコーナーガードを設置するなど、怪我防止に努めている。 |
| 3 | | | |